

日吉台地下壕保存の会

# 会報

第27号

発行 日吉台地下壕保存の会  
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上  
郵便振込(口座番号)横浜 5-74921  
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

第二回平和のための戦争展会場風景

岡上そう画



目次	ページ
「保存」のために	2
「平和のための戦争展」特集	
報告とお礼	3
高校生の立場から平和展に	
参加して	3
アンケート(感想)集	4、5
経過とあらまし	6
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話	7
幹事会報告	8
お知らせ	8

## 「保存」のために

幹事 小園 優子

二〇年ぶりの大雪というハ  
ブニングもありながら、大倉  
山記念館での戦争展は、マス  
コミ報道と市の後援もついた  
ことが幸いしたのか、最終的  
には一八五〇人もの人々が入  
場しました。

この意外な入場者数は、こ  
こ神奈川の地にかつて大が  
かりな陸軍の謀略・諜報基地が  
存在していた事や、今も残っ  
ている海軍の司令部地下壕に、  
関心を寄せる人がたくさんい  
ることを示しているのではな  
いでしょうか。

また地下壕見学者の感想文  
を読むとたいいていの人が、戦  
争中の日本の有り様に心を馳  
せ、現在の平和を考える大事  
な遺構としては是非とも保存す  
べきだとの思いをつづつてい

ます。

ところで、私たち保存の会  
の総会も近くなつてまいりま  
した。先号の会報で会長が  
「今年の目標」と題して「保  
存という共通の目標は現在ま  
で、どれだけ達成できたのだ  
ろうか・・・今年は保存のた  
めに何が出来たのか」と会員  
一同にシビアな提案をなさつ  
ておられます。

会も発足して五年、保存の  
目的は思うように進展してい  
ないのが現状です。私たちも  
これまで、どこをどう叩いた  
ら扉がうまく開かれるのか手  
さぐりの状態でしたが、今年  
は何とかこの扉を開ける手が  
かりをつかみたいと思います。

来年は敗戦五〇周年を迎え  
ます。神奈川県でも根岸線・



本郷台の駅前に平和博物館の  
機能をもつ「地球市民かなが  
わプラザ」（仮称）の基本計  
画が策定中であり、一九九六  
年には開館の予定といわれて  
います。また横浜市でも港北  
ニュータウンに九五年開館の  
歴史博物館建設計画が進行し  
ています。現在、国立の平和  
祈念館について論議のある中  
で、これらの計画内容につい  
ても関心を抱かなければなり  
ませんが、その膨大な建設予  
算のほんの一部分を日吉台地  
下壕の保存にさいてもらう運  
動などできないものでしょう  
か。

それにしても、地下壕は慶  
応大学の日吉の地下に眠って

いるのです。まずは大学当局  
との話し合いを第一に、具体  
的な取り組みをしていかなけ  
ればと思います。幸い昨年は  
非公式とはいえ、大学と二回  
の話し合いがもたれています。  
この話し合いをさらに推進し  
ていくために、大学内の心あ  
る人々に声をかけて賛同者、  
協力者を増やし、また大学当  
局の関係者や県・市の関係者  
の方々にも地下壕に入っても  
らい、理解を深めていただく。  
さらに一昨年、地下壕にご案  
内した国会議員を含めた日吉  
台地下壕問題調査団の方々に  
も協力いただくとか、少しず  
つでも輪を広げる努力をして  
いきたいと思います。鮫島会  
長や寺田事務局長を中心に、  
幹事や会員一同が力を大いに  
発揮して、内からと外からと  
保存の実現に取り組んでいこ  
うではありませんか。

# 平和のための戦争展特集

\*\*\*\*\*

## 「第二回平和のための戦争展」

### 報生口とお礼

実行委員長 亀岡 敦子

大倉山記念館のギャラリー

は、内装も照明もこの戦争展の写真や展示品に実にふさわしく、静かに熱心に観てゆく方々も含めて、一つの世界を創り出していたように、私には思えました。講演もシンポジウムも盛況で、横浜に場所を移しての戦争展は、成功したと実行委員一同感激しております。これも皆様方、足を運んで下さった方と賛同金をお寄せ下さった方々のおかげです。

ビッシリと書かれた感想文からも、会場での短い会話が

らも、私たちの戦争展を通して届けようとした願いが、各々の方に受け止めて頂けた事がわかりました。早速次回に向けて動き始めます。

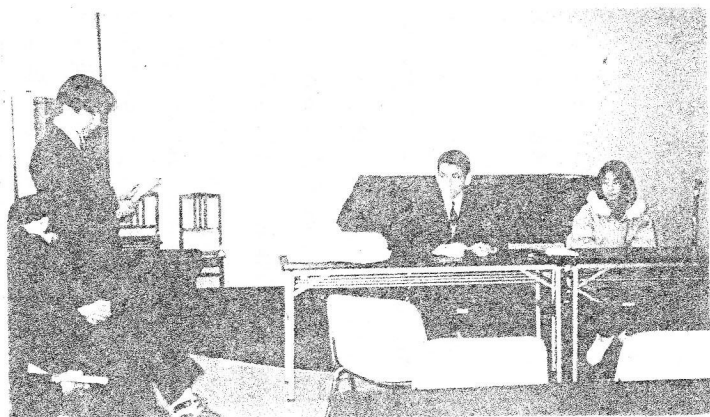
多くの方に地下壕の存在を知って頂く事、それが保存運動にもつながっていると考えからです。

## 高校生の立場から平和展に参加して

法政二高歴史

研究部部長 斎藤一晴

我々歴史研究部が平和展に参加したのは今年がはじめてである。最初は 高校生の立場からどのように参加すればよいのか戸惑いぎみであったが、実際に平和展が始まると



部員全員が高校生らしい視点や角度から一生懸命取り組んだ。又僕は高校生討論会に司会者という立場で参加し、討論会に参加してくれた人達と意見を交換したり、私達高校生がどのように平和学習を進めていくべきなのか等話を合つことができ、とても充実

したものであったと思う。

「平和のための戦争展」のような地域からの平和への活動は、他の諸外国に比べて遅れているうえ、今までの日本の歴史のなかでもなかなか発展しなかったものである。戦後半世紀が過ぎようとする今、高校生などの若者を中心とした地域に根ざした平和活動が必要であり、又そうすることが今後の日本とアジア諸国をはじめとする世界の国々につきあうためにも不可欠なことであろうと感じた。

最後に、我々歴史研究部が平和展に参加するにあたり協力してくださった法政二高の渡辺先生、大湖先生、榎本先生、そして期間中お世話になった全ての方々に感謝の気持ちを表わし、「平和のための戦争展」の活動報告にしたいと思う。

## 「平和のための

## 戦争展」

## アンケート

## (感想相心) 集

★大東亜戦争に至るまでの日本と世界との関係もわかり、大変よく整理された展覧会でした。

当時、戦争にならないための努力をする人たちは排除され、軍にすべての人たちが協力するように組織されたのです。もし拒否していたなら、まとも生きて行けたでしょうか。戦争を進めた指導層の責任を強く問いたいと思います。

あれから五〇年もすぎ、現在の世の中は、日本ではとにかくにも、戦争にならないための努力がなされています。あの道をふたたび歩いてはなりません。

世界は、冷戦崩壊後、民族独

立の声があちこちで上がり、戦火がたえません。貧富の差が争いのもとになりますし、一方では覇権主義もはびこります。人間の心の中が穏やかに、他の人と手をつなげるように変わって欲しいものです。(六〇代女)

★もしも今に戦争がおこったらと思い写真展をみていたが、本当に行ったらこわいと思う。おじいさんも戦争にいつて、たたかうというけいけんをして、生きてかえってこれたからよかった。

ここにおいてある物がおじいさんの家にもありました。

(一〇代女)

★私は戦争をなにも知らなかった。今日ここにきて戦争がどれだけいけないことかわかった。ここにきてしゃしんをみて、いろいろわかったような気がする。(一〇代女)

★あまり戦争のことは普段考えていないけど、今の人達も昔のことをちゃんと見て、考えて、同じまちがいをおかさないようにしていかなければいけないと思います。(一〇代女)

★地下壕の模型がすごくすばらしい。(一〇代男)

★沖縄戦や太平洋戦争について学習してきましたが、まだ、勉強不足と言う所があったように思います。戦争の真実をかたりつづけていかななくてはならないのは、私達自身なのに、戦争についてまだわからない人が多くいます。ここへ来て私はつたえなくてはならないと思いました。(一五才男)

★あまり戦争の実感がわかない。だからこういう展示をみてもピンとこないけど、これから私たち世代はどうしてい

収支決算書

収入		支出	
前回繰越金	43,965	場所代	33,400
プレイヤ参加費	40,000	事務通信費	78,543
賛同金	249,820	印刷費	28,021
資料代(カガ'合)	60,605	材料費	19,099
合計	394,390	謝礼	33,708
		交通費	37,940
		運営費	89,704
差引残高	73,975円	合計	320,415

(備考) 上記の他に賛同者への報告をまだしておりませんので、その印刷費と郵送料等の支払いが残っています。残金はこれからの活動に有効に使う予定です。

かなくてははいけないのかと考えさせられた。なぜ戦争がおきたのか! いま日本が同じような道を歩んでいないか。多くの問題をのこした戦争について体験談をこれから聞きたいと思う。(二〇代女)

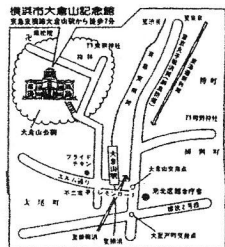
★語る会と展示を見ました。各市町村をローラー作戦で、

## 日時

2月 9日(水)  
午前10時から  
2月13日(日)  
午後5時まで

## 場所

横浜市大倉山記念館



主催：平和のための戦争展  
実行委員会

後援：横浜市

後援：横浜市教育委員会

実施団体：

★日吉台地下壕保存の会

★川崎市中原平和教育学級  
記録編集委員会

★川崎市中原平和人権尊重  
学級企画委員会

連絡先：

★寺田貞治(8045-562-1282)

★渡辺賢二(80462-34-4203)

## 実施内容

●2月9日(水)～2月13日(日)

<展示>日吉台地下壕と登戸  
研究所を中心に戦争の実態  
をパネルなどで展示

★1階・ギャラリー

●2月12日(土)

<ビデオ上映>

日吉台地下壕、登戸研究所

松代大本営、戦ふ少国民など

★午前10時～12時半

★3階・第2集会室

<講演>

日吉台地下壕：寺田貞治氏

登戸研究所：渡辺賢二氏

松代大本営：大日方悦夫氏

★午後1時～4時

★2階・ホール

●2月13日(日)

<戦争体験者の話>

中国大陸で強制連行に携わった元軍人の話

海軍警備隊で横須賀基地から日吉にきた元軍人の話

登戸研究所にかかわった人の話

★午前10時～12時半

★1階・第10集会室

<シンポジウム>

若者達の調査研究報告と討論

★午後1時～4時

★1階・第10集会室

## 平和のための戦争展「私の街から戦争が見える」

連合艦隊司令部、大本営情報部等の日吉台地下壕、謀略秘基地登戸研究所から戦争の実態に迫る

廻ってもらいたいと思いましたが、多くの子供に伝えて行きます。(三〇代男)

★この展示はもっと知らせるべきと思います。県内の各自治体が平和都市宣言をし平和事業をしていますので、その中身にもっていける可能性があるのでは。(四〇代男)

★法政二高の生徒さんの発表にありました。が今までは被害者の立場からの発表が多かったと思います。加害者の立場からの研究発表を興味深く見学しました。(四〇代女)

★意を表します。(六〇代女)

★地味な活動だと思いましたが決して忘れてはいけない記録として折にふれて語り継ぐべき事と思います。

法政二高の歴史研究部のご努力に頭が下がります。体験者の高齢化にこのような若い方々のサークルを知った事も今日の大きな収穫です。頑張つて続けて下さい。(六〇代女)

★私もシベリヤ抑留をうけましたが、その被害はむしろ当然で日本の加害をもっと考えるべきと思う。(七〇代男)

★主人は軍人でしたので話しは聞いておりましたが、こんな面も有ったのだと言う事をしみじみ知りました。主人は写真の前に立って涙を流しております。(七〇代女)

★戦争を否定する、参加しない自由のなかった日本の若者の笑顔に涙します。(女)

★よくもこれだけ資料を集めましたね。見せて下さって有難うございました。当時の関係者の御心配と御苦勞を忍び、御同情の念をいだくと共にご冥福を祈ります。また平和を守るため努力、苦勞を今後は最重要事項と考えるべきだと思います。(八三才男)

次ぎのようないざ指摘がありました。

◆午後の開始時間をはっきりとし、食堂のないことも明記して欲しい。

◆表記の違い(柳条溝⇨柳条湖など)の簡単な説明があるとうい。

◆年表の日付と自分の記憶の違いがあるが。

◆戦時中の国民生活や学校の状態を撮った写真や資料があればと思う。



# 「第二回平和のための戦争展」を終って

経過とあらまし

◆当日までの経過

九三年六月二八日 幹事会

第二回平和のための戦争展

について検討

七月一四日 第一回打合せ会

八月二五日第二回実行委員会

九月一六日第三回同会

一〇月二二日第四回同会

十一月二五日第五回同会

十二月一六日第六回同会

九四年一月二二日第七回同会

＊最終実行委員会として受付

イベントなどの役割分担、

展示物の搬入、立看板など

の準備、簡単な打ち上げな

どについて話し合った

プレイベント

一二月一二日旧陸軍登戸研究

所見学会

九四年一月二三日吉台地下

壕見学会

◆期間中の参加者の様子

二月九日ギャラリー一五〇名

一〇日 同 一九二名

二一日 同 八一四名

二二日 同 一四二名



ホール 午後四〇名

(松代、登戸、日吉台の講演)

第六集会室午前四〇名

(日吉台などのビデオ)

一三日ギャラリー 二七二名

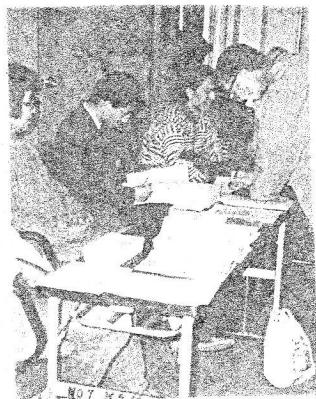
第一〇集会室午前七〇名

(戦争体験者の話)

同 午後三五名

(若者たちのシンポジウム)

◇二二日(祝日)には、NHKの放映を見た人がひきもきらず、受付では自分の戦争体験を語る姿がみられた。



◇二二日(土)二〇年振りの大雪にもかかわらず熱心な人々が午前中からビデオを観賞し、午後は中央線一時不通の中を駆けつけて来られた大日方さんの松代大本営公開までのいきさつなどの話に耳を傾けた。



◇一三日(日)凍りついた雪の坂道を大勢の方々が登ってこられ、小島氏の中国での戦争体験や、和田氏の登戸研究所の話聞き、午後は若者の調査研究報告と討論に参加された。



◆三月七日反省会  
於日吉ブルーベア

◆報道関係

朝日新聞 二月六日

神奈川新聞 同 八日

毎日新聞 同 二一日

NHK 同 九日

## 連載

日吉△口地下壕  
当時の関係者の  
思いい山山話 4

## 日吉移転前後 4

前回お話いただいた実松氏の下で情報の仕事をされていた増井潔氏に、慶応予科校舎への移転と小泉塾長のお話を伺います。

## 増井 潔氏の話

(ききて・寺田貞治)

昭和一八年五月ごろ、軍令部第三部(情報部)第五課(米国を担当)に三名の主計大尉が配属になったが、二名は東大卒、一名は慶大卒の私であった。経済学部を一六年に卒業、一七年一月に海軍に主計中尉として入隊、四カ月の訓練を経て、巡洋艦「愛宕」に乗り、ミッドウェイやガダ

ルカナルの実戦を経た後、一八年五月に軍令部第三部に転勤になり、終戦まで実松氏の下で情報の仕事をした。

ある時、第五課長の竹内大佐に呼出され、第三部の日吉移転について相談を受けた。

実松氏から「小泉信三塾長に海軍の要望として、日吉の校

舎を借りることはできないか打診して欲しい。第三部だけでも移転したいことを伝えて欲しい」と言う要望であった。

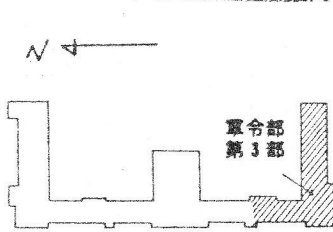
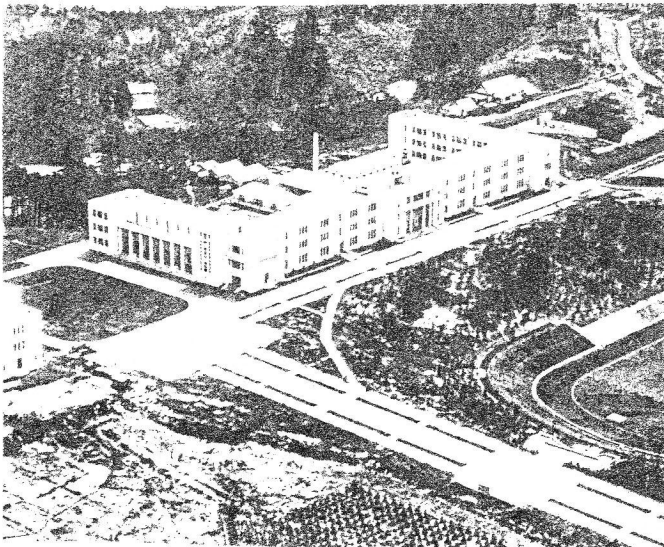
実は、私は小泉信三塾長の息子さんの信吉氏とは、慶応で同期であった。彼は在学中に海軍に志願したので、海軍では私の一期上の七期であつ

た。私が海軍に入る時、小泉塾長は送別会を開いてくださった。息子が海軍にいることもあって、塾長は海軍びいきであった。

早速、小泉塾長に電話をすると、二つ返事で快く引受けてくださった。「海軍が利用するなら異存はない。教務主任に連絡しておくから、主任に会って細かい話をするように」と言われ、早速、主任に会い、予科の校舎(現在の高校校舎)の南側の日当りのよいところを貸してもらうことになった。事務的な手続きは庶務課がやった。

一九年二月はじめ、軍令部第三部はすべて日吉に移転した。

(生協ニュース教職員版第四号より抜粋転載)



高校



慶応義塾125より

## 第二〇回松軒車手△△報生口

一月二日一七時半

慶応高校地学教室

## 報告

一、一月二日一七時半港区区民

## 会議

~~~~~

## 第十六回松軒△△の

## お知らせ

日時：四月一六日(土)

午後二時半

場所：慶大日吉キャンパス

藤山記念館大会議室

(東横線日吉駅下車)

ビデオ上映：二時半～三時半

松代大本営、日吉台地下壕

など(上映順)

総会：三時半～四時半

◎一年一回の総会です。

みなさんのご意見、ご希望を  
お聞かせいただきたく、是非  
ご出席くださるようお願い申  
し上げます。

二、同二八日日吉台西側(大

聖院裏)地下壕のパネル用

写真の撮影

三、同二四日戦争展のピラ作

成

四、同二七日横浜市広聴課に

戦争展のピラの配布をお願い

いし、承諾を得る

## 議事

一、一月二三日の地下壕見学

会について

二、戦争展について

\*展示責任者：喜田

三、会報第二七号発行につい

て

第二一回松軒車手△△報生口

二月二三日一七時半

日吉地区センター

## 報告

一、一月一八日慶大福沢セン

ターにて資料写真撮影

二、同二二日戦争展第七回実

行委員会

三、同二五日福沢センターに

て資料写真撮影(寺田、小

池汪)

四、同二五日戦争展展示につ

いて打合せ

五、同二七日大倉山記念館に

て打合せと下見

六、同二九日蟹ヶ谷通信隊基

地跡と同地下壕見学会一五

名余参加(登戸関係者)

七、同二九日戦争展展示物作

成と打合せ

八、二月三日戦争展展示物作

成

九、同八日大倉山記念館に戦

争展展示物、搬入、展示

九日～二三日戦争展

一〇、同二六日新吉田小の先

生方の日吉台地下壕見学会

予定

一一、同二七日登戸研究所の

見学会予定

## 議事

一、第二回平和のための戦争

展について

\*戦争展まとめ欄参照

二、終戦五〇周年(一九九五

年)にむけて第三回戦争展

を企画してはどうか

\*場所は慶大日吉キャンパス

で出来ないか

\*五月二五日横浜大空襲の日

前後がよくはないか

三、運営委員会と総会開催に

ついて

\*日程などはお知らせ欄参照

\*役員になって下さる方を積

極的に探す

\*会員から希望を出して貰っ

たり、会報に投稿を呼びか

ける

\*会費はなるべく値上げを避

けたい

四、日吉台地下壕オリジナル

ビデオ制作について

\*岡上さんより提案があり、

若い人の力で、シナリオか

ら撮影、編集まで、手作り

でやってみることにした